

令和4年度長崎県立農業大学校評価シート

基準日 R5.3.9

外部評価委員 氏名 ( 木村 務 )

外部評価の観点  
 A：目標を達成した。 C：目標を未達成である。  
 B：目標をほぼ達成した。 D：目標にかけ離れている。

番号	重点目標	評価指標	実績	自己評価	次年度に向けて(校長)	外部評価
1	多角的な学生募集活動の推進による入学者の増加 (教務課、養成部、研修部)	◎令和5年度入学試験合格者 40名 【R2実績：31名(C)、R3実績：42名(A)】	34名	B	・高校3年生時点では既に進路が決まっている場合が多いため、1・2年生時から農業大学校を認知してもらい、進学につながるよう引き続き高校との連携強化を図る。 ・併せて、完成した新寮についてもPRに努める。	B
		○ホームページ等による情報発信 ホームページの掲載年間 220回 (養成部170回以上、研修部25回以上、その他25回以上) 【R2実績：233回(A)、R3実績：227回(A)】	216回	C	・最終的には目標の220回を達成する見込みであるが、実際にターゲットとする高校生等に閲覧されているか把握できていないことから、アクセスカウンターの設置やアンケートを実施し、より効果的な発信方法を検討する。	
		○マスコミ等を通じたPR回数 20回 【R2実績：15回(-)、R3実績：20回(B)】	16回	C	・今年度はコロナの影響で中止した行事もあり十分な広報活動が出来なかったが、次年度はオープンキャンパスや飛雲祭などの行事に加え、学生のプロジェクト学習の取組みなど農大で何が学べるのかをPRできる内容を発信していく。	
2	実践教育による、社会に役立つ人材の育成 (養成部)	○日本農業技術検定2級合格者(割合%) 2年生取得者50%以上(15名) 【R2実績：26%(6名)(D)】 【R3実績：31%(10名)(C)】	27.6% (8名)	D	・過去問題の練習や手作りのアプリを作成し学習意欲の向上を促したが、2級合格者は8名に止まった。課題として、自営就農者を中心に検定に対するモチベーションが低いことから、今年度は1年生の3級未取得者には3級受験を促進し、4名/6名が合格した。 ・引き続き、受験対策と併せて、就職時に有利であることなどを説明し、モチベーションの維持向上を図る。	C
		○プロジェクト学習の内容充実 一定水準(70点)以上の発表80%以上 【R2実績：87%(A)、R3実績：100%(A)】	75.9%	B	・発表時間が基準より短く、減点により70点を下回った学生が3名いたことから、卒業論文の取りまとめ及び発表準備に十分な時間を確保できるよう指導を徹底する。	
		○農家等派遣研修の評価(35点以上の割合%) 受入農家からの一定水準以上の評価 1・2年生とも：70%以上 【R2実績：1年生78%、2年生91%(A)】 【R3実績：1年生66%、2年生72%(C)】	1年生 73.0%  2年生 65.5%	C	・農家派遣等研修については、技術だけでなく、農家と生活を共にすることで実際の農家の生活や農業経営についての考え方、心構えを学ぶことが求められるが、一部の学生において目的意識が低く積極性に課題が見られた。 ・このため、早期に進路や就農後の経営目標を明確にし、研修先で学びたいことを具体的に考えさせるように指導していく。	
3	就農に向けた進路指導の強化 (教務課、養成部)	◎就農予定者及び農業技術者 90%以上(26名) 【R2実績：87%(A)、R3実績：94%(A)】 ○学生のインターンシップ人数 20名 【R2実績：9名(-)、R3実績：26名(S)】	90% (26名)  21名	A  A	・目標は達成できたが、今後も進路に対する早めの意識付けと保護者や振興局との情報共有に努め、一人でも多くの就農者及び農業技術者の育成を図る。	A

令和4年度長崎県立農業大学校評価シート

基準日 R5.3.9

外部評価委員 氏名 ( 木村 務 )

外部評価の観点

A : 目標を達成した。 C : 目標を未達成である。  
B : 目標をほぼ達成した。 D : 目標にかけ離れている。

番号	重点目標	評価指標	実績	自己評価	次年度に向けて(校長)	外部評価
4	安全意識を持った農業機械利用者の養成とながさき農業オープンアカデミー開講(研修部)	○農作業安全研修会 開催回数 40回以上  【R2実績：40回(B)、R3実績：44回(A)】	44回	S	・今年度は、農業集落法人が多数存在する壱岐市で研修会を開催することができた。また、大特・けん引研修については、実技時間を増やすことで合格率も向上し、受講待ち人数を昨年度末の147人から今年度末は44人まで縮小することができた。 ・引き続き、農作業事故低減のため、農作業安全研修会や大特・けん引研修を通じた啓発に努める。 ・今年度は、14名が受講し、うち12名が経営計画を作成し発表まで行った。また、初めて離島(五島市)での講座を開催した。 ・アンケートの結果、経営者としての自覚が高まったと評価する意見が多かったが、労務管理など満足度が低い講義もあったことから、次年度は、グループワークや経営計画作成に重みを置いたカリキュラムに見直しを図る。	A
		○オープンアカデミーの内容充実 アンケートで満足と回答80%以上  【R2実績：86%(B)、R3実績：87%(B)】	80%	B		

目標の難易度：◎特に困難 ○通常 △容易に達成

●評価に関するご意見、ご助言等を記入ください。

【項目評価】

(重点目標1) 昨年に比し入学者数は減少したが、追加合格者を含め寮生活の実践など多様な募集活動の成果が出ている。とくに西彼地区の農業高校からの進学増加は評価したい。

体験カレッジ等の高校生参加型の大学紹介による本校への理解の深まりや農業高校との強いつながりなどの結果と言え、今後の継続を期待する。

コロナ禍でホームページの情報発信が減少したが、その評価については、SNS等の多様な手段による情報手段の多様化が進んでおり、高校生や保護者との交流手段を検討すべき時期にある。

(重点目標2) 農業技術試験は2級取得者が8名(27.6%)と低位であるが、目標値が高いため、今後の検定モチベーションの向上が課題となっている。1年生の3級受験など意識向上を期待している。

卒論作成の学習・研究では、発表時間が短くて70点未満となった者がおり、指導や発表準備の徹底において注意すべき課題を整理したい。

農家派遣研修は、農業技術のほか農家生活や農業経営について学べる重要課題であるが、一部学生の目的意識の向上が課題となっており、動機づけ指導・修得目標の徹底が求められる。

(重点目標3) 雇用就農を含め、出身地とは異なる地域への就職など、新たな雇用形態が出ており、引き続き、これからの就農者及び農業技術者育成を期待したい。

(重点指導4) 壱岐市での農業集落法人の研修会など主要地域での研修が実現や、大特・牽引研修では実技時間増加で合格率が向上し、受講待ち人数を大幅に減少することができた。

オープンアカデミーは、離島での開催も含め、経営計画作成・発表等の成果があり、経営者としての自覚が高まったとした評価が多かった。満足度が低い講座の見直し等、課題検討を期待している。

【全体評価】

出前講義や多様な実践活動により本校教育への理解が深まり、卒論プロジェクト等による学力提示や農家就農・雇用就農などの基本目標の達成率が極めて高いことなどが評価され、ホームページやマスコミを通じた発信や、農作業安全講習や大特免許講習およびオープンアカデミーなどの地域貢献の取り組みなど、本校の総合的な取り組みの成果が出ている。さらに本校は、施設の改善が予定されており、スキルの上達を含む高度なレベルの農業者大学校として、大きな成果が期待されている。

一方で、学生の生活活動を含む総合的な教育課題が出てきており、教員間の相互交流・研鑽をはじめ多様な対策が求められている。とくに近年重視されている「会話のキャッチボール機会の提供」は、本学の実践教育における重要課題となっており、他県の農業者大学校等の状況把握や本学実績等、多様な視点からの検討が求められている。